

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	研究科の設置									
フリガナ 設置者	カヨウコウジシヨク ヲウカクケン 学校法人 和洋学園									
フリガナ 大学の名称	ヲウカク ヲウジダク ガクダク 和洋女子大学大学院 (Wayo Women's University Graduate School)									
大学の位置	千葉県市川市国府台二丁目3番1号									
大学の目的	本大学院は、専門知識を広く授けるとともに深く専門的学術技芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、時代を切り開く精神と、時代に応じた自立した人材養成と文化の発展と福祉の増進に寄与する有能な女性を育成することを目的とする。									
新設学部等の目的	地域の保健・医療・福祉及び市川市を中心とする千葉県東葛南部地域において、地域ならびに医療機関で自立し、医療・福祉への生活支援ネットワークの要の専門職である看護職人材を養成することを目的とする。 そして、社会、地域を取り巻くさまざまな課題に看護専門職として主体的に取り組み問題・課題解決を通じて、地域・医療・福祉に貢献する看護人材を養成するとともに、総合的な調整能力とリーダーシップとコミュニケーション力を備えた看護専門職者、看護研究者・教育者を育成することを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 看護学部 看護学科 14条特例の実施	
	看護学研究科 (Graduate School of Nursing) 看護学専攻 (Division of Nursing Studies) 計	2年	6人	—人	12人	修士 (看護学) (Master of Nursing)	令和6年4月第1年次	千葉県市川市国府台二丁目1番3号		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	該当なし									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	看護学研究科 看護学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30 単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設	看護学研究科 看護学専攻		教授	准教授	講師	助教	計	助手	
		計		10人 (10)	6人 (6)	5人 (5)	0人 (0)	21人 (21)	0人 (0)	14人 (14)
	既設	人文科学研究科 英語文学専攻		3 (3)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	7 (7)	0 (0)	2 (2)
		日本文学専攻		2 (2)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	2 (2)
		総合生活研究科 総合生活専攻 博士前期課程		15 (15)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	8 (8)
		博士後期課程		9 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	1 (1)
		計		29 (29)	13 (13)	0 (0)	2 (2)	44 (44)	0 (0)	13 (13)
	合計		39 (39)	19 (19)	5 (5)	2 (2)	65 (65)	0 (0)	- (-)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体				
	事 務 職 員		51 人 (51)	88 人 (88)	139 人 (139)					
	技 術 職 員		2 (2)	3 (3)	5 (5)					
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)	0 (0)	2 (2)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計		55 (55)	91 (91)	146 (146)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	和洋国府台女子中学・高等学校（必要面積20,040㎡）と共用（収容定員；中学360人、高等学校720人）				
	校 舎 敷 地	9,938 ㎡	34,397 ㎡	4,711 ㎡	49,046 ㎡					
	運 動 場 用 地	80,548 ㎡	12,342 ㎡	4,337 ㎡	97,227 ㎡					
	小 計	90,486 ㎡	46,739 ㎡	9,048 ㎡	146,273 ㎡					
	そ の 他	0 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	0 ㎡					
合 計		90,486 ㎡	46,739 ㎡	9,048 ㎡	146,273 ㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
		54,986 ㎡ (54,986 ㎡)	3,198 ㎡ (3,198 ㎡)	1,123 ㎡ (1,123 ㎡)	59,307 ㎡ (59,307 ㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	43 室	27 室	36 室	6 室 (補助職員0人)	1 室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称 看護学研究科 看護学専攻		室 数		21 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での 共用分を含む 図書277,452冊 学術雑誌 1,624冊		
	看護学研究科 看護学専攻	455 [130] (455 [130])	10 [10] (10 [10])	2 [2] (2 [2])	— (—)	4 (4)	— (—)			
	計	455 [130] (455 [130])	10 [10] (10 [10])	2 [2] (2 [2])	— (—)	4 (4)	— (—)			
図書館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体		
		3,673 ㎡	400		278,611					
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
		6,005 ㎡	—							
経 費 の 見 積 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体
		教員1人当り研究費等		250千円	250千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		14,493千円	14,493千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	8,510千円	4,447千円	4,638千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	250千円	0 千円	0 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		995千円	820千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、事業収入、雑収入他							

大学の名称		和洋女子大学							所在地
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
既設大学等の状況	人文学部			3年次			1.04		千葉県市川市国府台二丁目3番1号
	日本文学文化学科	4	110	—	440	学士(文学)	1.03	平成20年度	
	心理学科	4	60	—	240	学士(心理学)	1.16	平成26年度	
	こども発達学科	4	70	—	280	学士(教育学)	0.95	平成26年度	
	国際学部						0.90		
	英語コミュニケーション学科	4	60	—	240	学士(英語コミュニケーション)	0.86	令和2年度	
	国際学科	4	60	—	240	学士(国際)	0.95	令和2年度	
	家政学部						0.95		
	服飾造形学科	4	60	—	240	学士(家政学)	1.01	平成20年度	
	健康栄養学科	4	120	—	480	学士(家政学)	1.08	平成20年度	
	家政福祉学科	4	110	—	440	学士(家政学)	0.77	平成20年度	
	看護学部								千葉県市川市国府台二丁目1番3号
	看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.01	平成30年度	
	人文科学研究科								千葉県市川市国府台二丁目3番1号
	英語文学専攻	2	5	—	10	修士(文学)	0.04	平成14年度	
	日本文学専攻	2	5	—	10	修士(文学)	0.50	平成14年度	
	総合生活研究科								
	総合生活専攻								
	博士前期課程	2	8	—	16	修士(家政学)	0.25	平成14年度	
	博士後期課程	3	3	—	9	博士(学術) 博士(家政学)	0.83	平成21年度	
附属施設の概要	該当なし								

学校法人和洋学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
和洋女子大学			
人文学部			
日本文学文化学科	110	0	440
心理学科	60	0	240
こども発達学科	70	0	280
国際学部			
英語コミュニケーション学科	60	0	240
国際学科	60	0	240
家政学部			
服飾造形学科	60	0	240
健康栄養学科	120	0	480
家政福祉学科	110	0	440
看護学部			
看護学科	100	0	400
計	750	0	3000
和洋女子大学大学院			
人文科学研究科			
英語文学専攻 (M)	5	0	10
日本文学専攻 (M)	5	0	10
総合生活研究科			
総合生活専攻 (M)	8	0	16
総合生活専攻 (D)	3	0	9
計	21	0	45

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
和洋女子大学				
人文学部				
日本文学文化学科	110	0	440	
心理学科	60	0	240	
こども発達学科	70	0	280	
国際学部				
英語コミュニケーション学科	60	0	240	
国際学科	60	0	240	
家政学部				
服飾造形学科	60	0	240	
健康栄養学科	120	0	480	
家政福祉学科	110	0	440	
看護学部				
看護学科	100	0	400	
計	750	0	3000	
和洋女子大学大学院				
人文科学研究科				
英語文学専攻 (M)	5	0	10	
日本文学専攻 (M)	5	0	10	
看護学研究科				研究科の設置
看護学専攻 (M)	<u>6</u>	<u>0</u>	<u>12</u>	(認可申請)
総合生活研究科				
総合生活専攻 (M)	8	0	16	
総合生活専攻 (D)	3	0	9	
計	<u>27</u>	0	<u>57</u>	

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(看護学研究科 看護学専攻 修士課程)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手				
共通 科目	研究方法Ⅰ（看護研究基礎）	1前	2			○			7						兼2	オムニバス	
	研究方法Ⅱ（看護研究応用）	1後	2			○			3							オムニバス	
	看護教育特論	1・2後		2		○			2						オムニバス・ 共同（一部）		
	看護倫理学特論	1・2後	2			○			4						オムニバス		
	チーム医療特論	1・2後		2		○									兼6	オムニバス	
	公衆衛生学特論	1・2後		2		○			2						兼1	オムニバス	
	地域包括ケア特論	1前		2		○			2	2						オムニバス	
	疫学保健統計学特論	1・2後		2		○			1								
	臨床心理学特論	1・2前		2		○										兼1	
	社会福祉学特論	1・2前		2		○										兼1	
	臨床栄養学特論	1・2後		2		○										兼4	オムニバス
小計（11科目）	—	—	6	16	0	—	—	—	9	2	0	0	0	兼12	—		
専 門 教 育 科 目	基 盤 看 護 学 領 域	看護管理特論	1・2前		2		○			2						オムニバス・ 共同（一部）	
		看護管理演習	1後		2			○		2						オムニバス・ 共同（一部）	
		小児看護学特論	1・2前		2		○			1						共同	
		小児看護学演習	1後		2			○		1	1					共同	
		成人看護学特論	1・2前		2		○			1						オムニバス・ 共同（一部）	
		成人看護学演習	1後		2			○		1		2				共同	
		老年看護学特論	1・2前		2		○			1						共同	
		老年看護学演習	1後		2			○		1		1				共同	
	小計（8科目）	—	—	0	16	0	—	—	—	5	1	3	0	0	0	—	
	広 域 看 護 学 領 域	健康医療政策学特論	1・2前		2		○			1	2						オムニバス
健康医療政策学演習		1後		2			○		1								
ウィメンズヘルス看護学特論		1・2前		2		○			1							共同	
ウィメンズヘルス看護学演習		1後		2			○		1	1						オムニバス・ 共同（一部）	
精神看護学特論		1・2前		2		○			1	1						オムニバス	
精神看護学演習		1後		2			○		1	1						オムニバス	
産業看護学特論		1・2前		2		○			2							オムニバス・ 共同（一部）	
産業看護学演習		1後		2			○		1		1					オムニバス	
地域看護学特論		1・2前		2		○			2							オムニバス	
地域看護学演習		1後		2			○		1	1						共同	
小計（10科目）	—	—	0	20	0	—	—	—	5	4	1	0	0	兼2	—		
研 究 別	特別研究	2通	8				○		10	6	1						
	小計（1科目）	—	8	0	0	—	—	—	10	6	1	0	0	0	—		
合計（30科目）		—	14	52	0	—	—	—	10	6	5	0	0	兼14	—		
学位又は称号		修士（看護学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）									
卒業要件及び履修方法								授業期間等									
本研究科に2年以上在学し、共通科目において必修科目6単位を含め12単位以上、専門教育科目において研究テーマに関する領域の特論2単位及び演習2単位の計4単位かつ他特論6単位を含め10単位以上、特別研究8単位を含めた合計30単位以上を修得し、かつ修士論文等を提出し審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分			2学期						
								1学期の授業期間			15週						
								1時限の授業時間			90分						

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要																
(看護学部 看護学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
テ和 イ洋 目ア ズビ 科リ	キャリアデザイン	1前・後		2				○							兼2	共同
	基礎ゼミ	1前	2					○		12	10	7	6			
	パソコンの基礎と応用	1前・後		2			○								兼2	
人文 科学 系	哲学への誘い	1前・後		2			○								兼1	
	日本の文学	1前・後		2			○								兼2	
	外国の文学	1後		2			○								兼1	
	ジェンダーと文学	1前		2			○								兼1	
	表現と創作	1前・後		2			○								兼2	
	こんにちの文化	1前		2			○								兼1	
	歴史学	1前		2			○								兼1	
	日本の美術	1前		2			○								兼1	
	西洋の美術	1後		2			○								兼1	
	音楽の歴史	1後		2			○								兼1	
	音楽の楽しみ	1前		2			○								兼1	
	手書き文字の世界	1前・後		2					○						兼2	
	漢字・かな文字の変遷	1前・後		2					○						兼2	
社会 科学 系	日本国憲法	1前・後		2			○								兼1	
	憲法と人権	1前・後		2			○								兼1	
	国際関係入門	1前・後		2			○								兼1	
	経済の仕組み	1前・後		2			○								兼2	
	社会の仕組み	1前・後		2			○								兼2	
	20世紀の日本	1前・後		2			○								兼1	
	家族と社会	1前・後		2			○								兼1	
家族と福祉	1前・後		2			○								兼1		
基礎 教養 科目	服装の科学	1前・後		2			○								兼2	
	ファッションの文化	1前・後		2			○								兼2	
	色彩の科学	1前		2			○								兼1	
	健康と食生活	1前・後		2			○								兼2	
	住まいとデザイン	1前・後		2			○								兼1	
	社会福祉の展望	1後		2			○								兼1	
	加齢と高齢者の科学	1前		2			○								兼1	
	こどもと育児	1前・後		2			○								兼1	
	化学	1前・後		2			○								兼1	
	数理と発想	1後		2			○								兼1	
看護の知識	1前・後		2			○			5					兼2	オムニバス	
人間 科学 系	社会貢献と実践	1前		2			○								兼2	
	心理の科学	1前		2			○								兼2	
	家族とジェンダー	1前・後		2			○								兼1	
	人間の発達	1前・後		2			○								兼2	
	生命の科学	1前・後		2			○								兼1	
	現代の教育	1前・後		2			○								兼3	
	遺跡に学ぶ	1後		2			○								兼1	
	生命と医療の倫理	1後		2			○								兼1	
	女性と美容	1後		2			○								兼1	
	健康の科学	1前・後		2			○								兼3	
	スポーツ実習	1前・後		1					○						兼2	
フィットネス実習	1後		1					○						兼1		
海外研 修科目	海外語学研修	1前・後		2				○							兼3	
	海外文化研修	1前・後		2				○							兼1	
外国語 科目	英語a-I	1前	1					○							兼3	
	英語a-II	1後	1					○							兼3	
	英語b-I	1前	1					○							兼3	
	英語b-II	1後	1					○							兼3	
小計 (53科目)		-	6	94	0			-		12	10	7	6	0	兼55	-

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門基礎科目	ピクチャーとテキスト 看護とホイス	看護学セミナー	1前	1				○			11	10	6	6		兼2 兼1 兼1 共同 共同	
		礼法	1前	1				○									
		ホスピタリティ	1後	1				○									
		アサーティブコミュニケーション	2前	1				○									
	健康と健康障害の理解	解剖生理学Ⅰ	1前	2			○				1					兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
		解剖生理学Ⅱ	1後	2			○				1						
		解剖生理学実験	2前	1					○		1						
		生化学	1前	1			○										
		栄養学	2前	1			○										
		薬理学	2後	1				○									
		病態と治療Ⅰ（内科系）	1後	2			○										
		病態と治療Ⅱ（外科系）	2前	2			○										
		病態と治療Ⅲ（産婦人科・小児疾患）	2前	2			○										
		病態と治療Ⅳ（精神・神経疾患）	2前	2			○										
	病理学総論	1後	1			○											
	健康支援と社会保障	公衆衛生学	2前	1			○				1		1			兼2 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼3 オムニバス	
		社会保障論	3前	1			○										
		看護と関係法規	3前	2			○										
		疫学	3前	2			○										
		保健医療福祉行政論	3前	3			○						1				
		保健医療情報学	1後		2		○										
		保健統計学	3前	2			○										
		チーム医療	3前	1			○										
小計（23科目）		-	33	2	0	-	-	-	-	12	10	7	6	0	兼18	-	
専門教育科目	基礎分野看護学	看護理論	2後	1			○				1					オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス・共同（一部） 共同 共同	
		看護学概論	1前	2			○				1						
		看護基本技術Ⅰ（生活の援助技術）	1通	2				○				2					
		看護基本技術Ⅱ（フィジカルアセスメント）	2通	2				○				3					
		看護基本技術Ⅲ（臨床看護技術）	2前	2				○				1					
		看護基本技術Ⅳ（看護の計画と展開）	2後	1				○			1	3		1			
		基礎看護学実習Ⅰ	1後	1					○		1	6	2	6	5		
		基礎看護学実習Ⅱ	2後	2					○		5	5	2	2	4		
	小計（8科目）		-	13	0	0	-	-	-	-	6	6	4	6	6	兼0	-
	成人看護学	成人看護学概論	2前	1			○				2					オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス 共同 共同	
		成人看護援助論Ⅰ	2前	2				○			1		2	1			
		成人看護援助論Ⅱ	2後	2				○			1	1	1	1			
		成人看護援助論Ⅲ	3前	1				○				1	1	1			
		成人看護学実習Ⅰ（急性期・回復期）	3後	3					○		2	1	2	2	5		
		成人看護学実習Ⅱ（慢性期）	3後	3					○		2	1	2	3	3		
	小計（6科目）		-	12	0	0	-	-	-	-	2	1	2	3	6	兼0	-
	発達分野看護学	老年看護学概論	1後	1			○				1					オムニバス 共同 共同 共同 共同	
老年看護援助論Ⅰ		2後	2				○			1	1		1				
老年看護援助論Ⅱ		3前	1				○			1	1		1				
老年看護学実習Ⅰ（施設）		2前	1					○		1	1	1	4	3			
老年看護学実習Ⅱ（病院）		3後	2					○		1	1		3	1			
老年看護学実習Ⅲ（包括支援センター）		3後	1					○		2	1	1	2	1			
小計（6科目）		-	8	0	0	-	-	-	-	2	1	1	5	3	兼0	-	
小児看護学	小児看護学概論	2前	1			○				1					オムニバス オムニバス 共同		
	小児看護援助論Ⅰ	2後	2				○			1	1	1					
	小児看護援助論Ⅱ	3前	1				○			1	1	1					
	小児看護学実習	3後	2					○		1	1	1		1			
	小計（4科目）		-	6	0	0	-	-	-	-	1	1	1	0		1	兼0

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	発達分野看護学	母性看護学概論	2前	1			○			2						オムニバス	
		母性看護学援助論Ⅰ	2後	2				○		1	1					オムニバス	
		母性看護学援助論Ⅱ	3前	1				○		1	1					オムニバス	
		母性看護学実習	3後	2					○	2	1		1	1		共同	
		小計(4科目)	-	6	0	0				2	1	0	1	1	兼0	-	
	精神看護学	精神看護学概論	2前	1			○			1	1					オムニバス	
		精神看護学援助論Ⅰ	2後	2				○		1	1	1				オムニバス	
		精神看護学援助論Ⅱ	3前	1				○		1	1	1				共同	
		精神看護学実習	3後	2					○	1	1	1		1		共同	
		小計(4科目)	-	6	0	0				1	1	1	0	1	兼0	-	
	在宅看護学	在宅看護学概論	2前	1			○			1						オムニバス	
		在宅看護学援助論Ⅰ	2後	2				○		1		1				オムニバス	
		在宅看護学援助論Ⅱ	3前	1				○		1		1				オムニバス	
		看護治療技術演習	3前	1				○		1					兼5	オムニバス	
		在宅看護学実習	4前	2					○	1		1	1	1		共同	
	小計(5科目)	-	7	0	0				1	0	1	1	1	兼5	-		
	広域看護学	公衆衛生看護学概論	1後	2			○			1						兼1	オムニバス・共同(一部)
		公衆衛生看護学展開論Ⅰ(地域)	2後		2			○		1	2					オムニバス	
		公衆衛生看護学展開論Ⅱ(学校保健)	3前		2			○		1	2					オムニバス	
		公衆衛生看護学展開論Ⅲ(産業保健)	2後	2				○		1	2					オムニバス・共同(一部)	
		公衆衛生看護学展開論Ⅳ(地域診断)	3前		1			○		1	2	1				オムニバス・共同(一部)	
		公衆衛生看護学管理論	3前		1		○			1						共同	
		公衆衛生看護学実習Ⅰ(市町村)	4前		2				○	1	2					共同	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ(保健所)	4前		1				○	1	2					共同	
		公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業・学校保健)	4前		2				○	1	2					共同	
	小計(9科目)	-	4	11	0				1	2	1	0	0	兼1	-		
	統合分野看護学	災害と地域看護活動	4後		1		○			1						兼2	オムニバス
		看護倫理	3前		1		○			1						兼1	オムニバス
		ヘルスプロモーション	1後		1		○			1						兼2	オムニバス
		感染看護学	2前		1			○				○				兼3	オムニバス
国際理解と看護		4後		1		○										オムニバス	
看護教育学		4後		1		○			1								
看護マネジメント		4後		1		○			1		1					オムニバス	
産業看護学		2前		1				○							兼1		
がん看護学		2後		1				○							兼1		
小計(9科目)		-	5	4	0				3	0	1	0	0	兼9	-		
統合共通看護学	看護研究Ⅰ	2前		1				○	3							オムニバス	
	看護研究Ⅱ	3通		1				○	11	10	6	4					
	看護研究Ⅲ	4通		2				○	10	10	6	4					
	看護の統合実践実習	4前		2				○	11	10	6	6	7			共同	
	小計(4科目)	-	6	0	0				11	10	6	6	7	兼0	-		
小計(59科目)			-	73	15	0			11	10	7	6	7	兼14	-		
合計(135科目)			-	112	111	0			12	10	7	6	7	兼84	-		
学位又は称号	学士(看護学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係)										
卒業要件及び履修方法	【卒業要件】 128単位 共通総合科目 必修 6単位・選択 14単位以上 計20単位以上 専門基礎科目 必修 33単位 専門科目 必修 73単位・選択 2単位以上 必修 112単位・選択 16単位以上 計128単位以上 履修科目の登録の上限: 48単位(年間)										授業期間等						
												1学年の学期区分	2学期				
												1学期の授業期間	15週				
												1時間の授業時間	90分				

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科 看護学専攻 修士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	研究方法 I (看護研究基礎)	<p>看護研究の実例に触れることで、看護実践の向上に寄与する研究の意義と役割の理解へとつなげる。各領域の看護研究に触れながら、研究遂行のために不可欠となる看護研究の基礎理論を身につけ、研究費申請を含めた研究計画ならびに倫理委員会への申請書類の立案能力を高める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (10 豊川智之／9回) 科学的証明、研究論文の構造、研究プロセス、サンプルサイズ、研究計画書、倫理委員会申請書、個人情報保護について説明する。</p> <p>(7 白鳥孝子／1回) 成人看護学領域の研究について概説し、研究疑問から研究の実施にいたるまでのプロセスについて実例を用いて説明する。</p> <p>(8 新谷奈苗／1回) 産業看護学領域の研究についてその歴史を含めて概説し、研究が立法や行政、そして社会にどのように関わっているのか説明する。</p> <p>(6 久保幸代／1回) 母性看護領域の研究について概説し、周産期をはじめとするライフコースの研究について説明する。</p> <p>(9 竹内久美子／1回) 看護管理学領域の研究について概説し、特に看護におけるキャリア発達に関する研究の実例を説明する。</p> <p>(5 金子真理子／1回) 精神看護学領域の研究について概説し、実例を用いながら看護研究の進め方について説明する。</p> <p>(3 石館美弥子／1回) 小児看護学領域の研究について概説し、健康課題をもつ子どもへの支援に関する研究について説明する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	<p>研究方法Ⅱ (看護研究応用)</p>	<p>看護研究の応用力を身につけることを主眼に、質的・量的の主たる研究デザインの類型についての理解を深める。さらに、看護研究論文の批判的読解手法の習得を基軸に文献レビュー法とメタアナリシス研究手法について学ぶとともに、看護の各研究領域に特有のデザインについて理解し、多職種連携を念頭においた看護研究について幅広くプロトコルを策定できる能力を身につけ、多様な局面において看護研究を計画・遂行・報告できる応用力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (10 豊川智之／5回) 量的研究と質的研究の対比や補完について説明する。批判的読解手法と文献学的研究について説明する。</p> <p>(27 木下康仁／6回) 主要な質的研究法であるM-GTAを説明する。また、エスノグラフィ、ナラティブ・アプローチ、現象学的アプローチ、事例研究など質的研究方法全般について説明する。</p> <p>(33 沼田華子／2回) 質的研究の現在の研究実践例をもとに、質的研究の進め方について説明する。</p> <p>(1 中澤明美／1回) 老年看護学領域の研究について概説し、主に質的研究技法を用いた研究課題の実例を説明する。</p> <p>(2 麻生保子／1回) ミックスドメソッドを用いた看護研究の実例を紹介し、質的研究と量的研究の関わり合いについて説明する。</p>	オムニバス方式
	<p>看護教育特論</p>	<p>教育学の基本的原理をふまえたうえで、授業設計、授業分析、教育方略、授業評価および教育評価の特性を概説し、看護教育への適用について検討する。さらに看護教育の歴史、制度、対象、方法等の特性を概説するとともに、看護基礎教育におけるカリキュラムの構成、カリキュラム分析、看護継続教育、卒後教育について教授する。これらを基盤に、看護基礎教育、看護継続教育、ならびに大学院教育、高度実践看護教育の現状と課題を検討する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (9 竹内久美子／7回) 教育学の基本的な考え方、教育方略、教育評価について概説し、教育学の基盤となる考え方を理解し、看護教育への適用について考察する。 看護継続教育、卒後教育のしくみについて教授する。これらを基盤に、看護基礎教育、看護継続教育、ならびに大学院教育、高度実践看護教育の現状と課題を明らかにし、今後の看護教育の在り方について検討する。</p> <p>(1 中澤明美／6回) 看護教育の歴史的変遷、制度、対象、方法等を概説し現行カリキュラムへの理解を深める。 加えて講義科目の授業設計、実習科目の実習指導計画について解説し指導案の作成演習を通して看護教育内容を実践的に捉えられるようにする。</p> <p>(1 中澤明美・9 竹内久美子／2回) (共同) 看護教育の重要な要素である、講義と実習指導について統合して学ぶ。講義科目の授業設計に基づき、授業案を作成し模擬授業を実施し、授業案について教員・学生とともにリフレクションすることにより、看護教育における授業の実践を学ぶ。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護倫理学特論	<p>医療の進歩や人々の死生観、健康に関するニーズの変化など、医療や福祉のみならず社会においても倫理的な実践力のある看護職が求められている。人々の尊厳を守り、その人らしい生を支えるために必要な倫理的知識や概念、分析力、行動するための方策について教授・検討し、個人の能力の向上とともに組織の中で倫理的なリーダーシップを担える能力を身につける。</p> <p>教授方法は、講義の他に、倫理事例の分析、プレゼンテーション、ディスカッションを通して、看護倫理に対する理解を深め、実践力の向上を目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (7 白鳥孝子／12回)</p> <p>生命倫理・医療倫理・看護倫理の歴史および重要概念、看護の対象者の人権や尊厳を尊重した看護の実践、倫理的問題が生じた際の状況の整理や分析および看護の対象者のための最善な支援を導き出す方法について教授する。</p> <p>その上で、学生のもつ倫理事例の分析、プレゼンテーション、ディスカッションを通して倫理実践力の向上を図る。</p> <p>さらに、組織や地域において倫理的問題が生じた際の職種間の調整や最善の方向に向けてのリーダーシップ、倫理的な風土を育む方策について検討を行う。</p> <p>(1 中澤明美／1回) 高齢者虐待や身体拘束など高齢者看護領域における倫理の特徴と課題について教授する。</p> <p>(6 久保幸代／1回) 生殖補助医療・性の多様性など母性看護領域における倫理の特徴と課題について教授する。</p> <p>(5 金子真理子／1回) 看護師からの倫理的コンサルテーションや精神障害に関するスティグマなど、精神科医療・精神看護領域における倫理の特徴と課題について教授する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	チーム医療特論	<p>近代医学、生命科学は急速に発展を遂げ、我が国では、大きく平均寿命の延伸を達成した。超高齢社会を迎えて疾病構造も変化しており、また医療に対する社会のニーズも変化しつつある。病院・診療所・地域医療を問わず、全ての医療職がその専門性をいかんなく発揮するためには、患者とその家族を中心とした専門職の協働、すなわちチーム医療の実践が不可欠であり、そのための人材の育成が求められている。本科目では、チーム医療の実践に不可欠な構成員の役割と機能を概括するとともに、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、それぞれの専門職が、チーム医療実践の具体例を提示し、履修者の研究計画との接点につき相互討論する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (22 金子健彦/3回) チーム医療を構成する医療専門職の種類とその専門性について概説し、最終回で総括する。皮膚科専門医として褥瘡サポートチームと統括した臨床・研究経験を提示して、履修者の研究計画に資する相互討論を行う。</p> <p>(28 佐藤博子/2回) 看護師の立場から、タスクシフト/タスクシェアリングの概念を概説する。</p> <p>(23 杉浦令子/4回) 管理栄養士の立場から栄養サポートチーム (Nutrition support team; NST) の活動を紹介するとともに、履修者の栄養学的課題や疑問点を聴取し、意見交換を行う。</p> <p>(31 党 雅子/2回) 検査部門所属医師の立場から、検体検査、生理機能検査、超音波検査の意義を概説し、他職種との連携上の課題につき討論する。</p> <p>(25 有田仁紀/2回) 大学病院勤務薬剤師の立場から、チーム医療への関わりを概説し、看護師との連携における成果と課題につき意見交換する。</p> <p>(29 澁谷和俊/2回) 病理診断医の立場から、チーム医療における病理医の役割を概説する。広く研究計画における形態学的アプローチを紹介し履修者との相互討論を行う。</p>	オムニバス方式
	公衆衛生学特論	<p>看護実践に必要な公衆衛生学の各領域の課題について、論点整理を行う視座を身につけ、高度専門職としての知識を高め、臨床・地域における多職種連携に貢献できる人材になることを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (10 豊川智之/13回) 老人保健、地域保健、母子保健、国際保健、感染症対策、地域計画、医療経済学、ヘルスコミュニケーション、がん疫学、非感染性疾患と運動・栄養疫学、社会疫学と健康格差、健康危機管理学についての理解を深める。</p> <p>(8 新谷奈苗/1回) ヘルスプロモーションと産業衛生に関する公衆衛生学の基礎とアプローチについて具体例を交えながら理解を深める。</p> <p>(22 金子健彦/1回) 医療の視座からみた公衆衛生について身体活動などを事例に理解を深める。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	地域包括ケア特論	<p>地域で暮らすさまざまな人々が、住み慣れた地域でその人らしく生きていくことができるよう看護の立場から地域包括ケア論を教授する。また、様々な発達段階や健康レベルにおける困難や複数分野の課題を抱え、複合的支援を必要とする対象を支援するための高度な対人支援能力を養う事を目的とした生活支援方法やケアシステムの開発を目指す。</p> <p>講義方法はオムニバス方式、分野横断的にディスカッションをしながら必要な知識並びに実践能力を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (2 麻生保子／12回)</p> <p>地域包括ケアシステムが必要な社会的背景や歴史の変遷、理念等、概要について概説し、地域包括ケア推進に向けた課題の分析方法や対策の実行と評価、多職種連携による重層的支援方法について考察する。実際の取り組み事例の報告を受け、地域包括ケアシステムの現状と課題について考察するとともに、受講者それぞれの立場における看護実践としての地域包括ケアについて論述する。</p> <p>(12 大久保麻矢／1回)</p> <p>地域における産前・産後支援の実際や、障害児の保護者、在日外国人母子を中心とした健康支援など地域共生社会の実現に向けた重層的支援に必要な視点について考察する。</p> <p>(15 河村秋／1回)</p> <p>地域において困難を抱えた若年者に向けた包括的な保健医療福祉サービスの提供のあり方や多職種と連携・協働した地域包括ケアについて考察する。</p> <p>(10 豊川智之／1回)</p> <p>地域における保健・医療・福祉サービスへのアクセスの状態と健康格差への関連状況を解説する。併せて、生活困窮者の感染症対策事例や我が国における医師・歯科医師偏在の課題等、すべての国民の健康長寿に向けた地域ケアシステムについて考察する。</p>	オムニバス方式
	疫学保健統計学特論	<p>看護研究で日常的に用いられる疫学及び統計解析手法について、実例を参照しながら基礎能力を身に付けることを目的とする。そして、統計解析を遂行し、研究報告能力を高めることを目的とする。看護研究における疫学・統計学の活用例として、データベースの理解、データクリーニングとデータ管理、治療効果・曝露効果の疫学指標、平均値・割合の比較と信頼区間、一般線形回帰モデル、ロジスティック回帰モデル、交絡の調整、無作為割付・無作為抽出、生存時間解析、時系列データ解析などを行う。</p>	
	臨床心理学特論	<p>臨床心理学の歴史と理念を理解し、心理アセスメントや臨床心理学理論について解説を行う。また乳幼児から高齢期までの生涯発達を通して、ライフステージにおける課題について解説し、その発達臨床的課題について事例等を通して解説する。精神疾患の臨床的接近、発達障害についてその心理的アセスメント、心理的観察方法、心理的治療について概説する。看護に活かす臨床心理学の理解を深める。</p>	
	社会福祉学特論	<p>現代社会の特徴を理解し、現代社会の中で起きている社会福祉的事象について解説を行う。社会福祉の理念や歴史、法律や制度・サービスを解説する。対象は、貧困、子ども、高齢者、障害者、ひとり親家庭、マイノリティ等である。それらの対象に実際に個別支援計画をたて、福祉的解決の現状とこれからの展望と理解を深める。ソーシャルワークの実践的方法論についても解説を行う。地域社会の中で暮らす人々で、様々な人との地域共生社会を理解する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	臨床栄養学特論	<p>医療現場における適切な栄養管理は、傷病の慢性期、急性期いずれにおいても全身状態と局所の改善に寄与する。本講義では、栄養管理の実践につき、担当教員それぞれの専門領域における今日的な臨床的課題を概説し、栄養学的観点からもリーダーシップをとれる看護師を目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (22 金子健彦／3回) 栄養食事療法・栄養指導のプロセスを概説し、栄養素摂取量の分析法、食事歴・生活歴調査法を示す。</p> <p>(34 増田敬／4回) 小児・アレルギー専門医の立場から、小児栄養療法の特性、食物アレルギーの診断と治療を概説する。</p> <p>(32 中村司／4回) 腎臓専門医の立場から、慢性腎臓病、透析、救急対応における栄養管理法と臨床的課題を概説する。</p> <p>(24 多賀昌樹／4回) 管理栄養士の立場から腎臓病食、たんぱく・塩分制限食の献立と調理法につき概説する。</p>	オムニバス方式
専門教育科目	基盤看護学領域 看護管理特論	<p>看護を取り巻く現状および看護管理の発展経緯を理解し、高度実践看護職および管理者としてあらゆる場での多職種との連携・協働に必要な看護管理の基本的諸理論について教授する。組織の現状分析と課題および課題解決に向けた方策について検討する。安全で質の高い看護を効率的に提供するための制度や政策および、看護職へのはたらきかけについて討議し、今後の研究課題の明確化を図る。教授方法は、各回のテーマに沿って講義形式と院生が主体となり事例紹介や発表などグループディスカッション形式により展開する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (9 竹内久美子／6回) 看護管理の歴史的変遷を踏まえ、看護政策、キャリア発達論、リーダーシップ論について教授する。さらに質の高い看護サービス提供のためのしくみについて検討する。</p> <p>(4 大堀昇／4回) 看護管理に関する諸理論、組織的な関わりについて教授する。さらに看護管理の今日的課題について検討する。</p> <p>(9 竹内久美子・4 大堀昇／5回) (共同) 学生が関心を寄せている看護管理に関する課題について、諸理論・先行研究等から問題点を明らかにする。さらに、これらの課題を解決するための方法について、政策・組織の改革・人的資源管理等のさまざまな視点で、グループワーク・個人ワークを通して検討し、学習を共有する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 基盤看護学領域	看護管理演習	<p>看護管理における諸理論、質の高い医療・看護を提供するための組織とその構造・管理運営方法、保健医療福祉に携わる人々および組織管理者との調整・連携、人的資源管理、ケアの質向上や看護職の資質向上のための制度や政策決定過程について議論し、国内外の現状・課題を整理する。関連する理論、理論的枠組みを設定し、討議する。先行研究の検討、クリティークの力を培うとともに、関連理論を熟考し、概念分析を用いて研究テーマを精選した後、研究枠組みを設定する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (9 竹内久美子／9回)</p> <p>看護管理上の課題を明らかにしたうえで、関連する理論を探求し、課題や関心のあるテーマについて概念分析を用いて、研究的な視点で課題を精選する。</p> <p>(4 大堀昇／4回)</p> <p>看護管理に関する諸理論を探求するとともに、興味あるテーマの先行研究をクリティークする力を養う。興味あるテーマを研究課題に精選する方法を教授する。</p> <p>(9 竹内久美子・4 大堀昇／2回) (共同)</p> <p>学生が関心を寄せている看護管理に関する課題について、概念分析から、研究枠組みを設定する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	小児看護学特論	<p>現代の子どもと家族が抱える健康問題を生涯発達の視点から理解し、小児看護の課題を整理する。子どもの成長・発達、健康障害、養育環境など、国内外の小児保健・看護の現状を概観し、健康課題に関する現象を解析する。子どもと家族にまつわる健康課題をアセスメントし有効な援助方法を検討するために、関連する概念および諸理論を学ぶ。授業方法は、各単元のテーマに沿って講義および演習方式で構成し、カンファレンスは学生が主体的に運営する。グループディスカッションを通して、自己の実践活動の基礎となる理論的思考を習得する。</p>	
	小児看護学演習	<p>子どもと家族に関する援助方法や実践的な支援システムなど、国内外の研究論文を精読し子どもと家族にまつわる特定課題を抽出する。関連文献の検索、論文のクリティークを実施し研究課題を見出すとともに代表的な研究デザインを学び、先行研究の理論的基盤に基づき文献レビューを作成する。さらに、小児看護に関連する学術集会に参加し最新の知見を踏まえて自己の研究課題を追求するための研究計画を展望する。</p>	共同
	成人看護学特論	<p>成人期にある健康障害を抱えた人々の理解、及びそのような人々への看護の基盤となる理論、概念および看護実践に必要な方法論について学ぶ。その上で、成人期にある人が自らの能力を最大限発揮でき、健康の回復、慢性疾患との共存、自らが望む人生の最後を過ごすための看護実践について検討を行い、理論や概念と現象を結びつけ、よりよい看護実践についての考察を深める。また、このプロセスにおいては、個人の看護実践に留まらず、看護チーム全体の看護力の向上を目指すための方策についても検討し、チームを牽引できる力を身に付ける。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 基盤看護学領域	成人看護学演習	<p>成人期にある健康障害を抱えた人々への看護に関する課題について、学生がもつ課題や関心のあるテーマについて、国内外の文献検討・クリティークを行い、課題の明確化および課題への取り組みについて検討する。演習方法は、学生のプレゼンテーションとディスカッションを主体として行い、自らの関心のあるテーマを追求し、発表するという体験を通して、研究者として、また、看護チームのリーダーとしての基礎的な能力を身につけることを目指す。実践的な課題の場合は、看護介入方法についてシミュレーション演習のシナリオ作成・演習の実施を取り入れ、より実践的な介入方法の検討を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (7 白鳥孝子／4回)</p> <p>成人期にある健康障害を抱えた人々への看護に関する課題について、課題の明確化および課題への取り組みのプロセスについて教授する。また、課題に応じたシミュレーションシナリオの作成と実施方法について教授する。</p> <p>(7 白鳥孝子・18 熊田奈津紀・19 段ノ上秀雄／11回) (共同)</p> <p>学生がもつ課題や関心のあるテーマについて、国内外の文献検討・クリティークを行い、課題の明確化および課題への取り組みについて検討する。また、成果を実践に還元する方法について検討し、実践的な課題の看護介入方法についてシミュレーション演習を実施し、学生がプランナーと受講生役の両方を体験することにより、現場への還元方法について検討する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	老年看護学特論	<p>老年看護を探究するうえでの基盤となる高齢社会の現状について統計調査を基に考察し、そこから見えてくる看護課題について検討する。また老年看護の対象である高齢者の特徴と発達課題について教授し、老年期特有の健康課題を抱える高齢者とその家族に対する専門的支援の方法と看護の課題を見出す。具体的には認知症ケア、終末期ケア、介護サービスや家族介護、高齢者看護における倫理的課題としての身体拘束に関する問題など実践例を通して検討し、今後の研究課題の明確化を図る。教授方法は、各回のテーマに沿って講義形式と院生が主体となり事例紹介や発表などグループディスカッション形式により展開する。</p>	
	老年看護学演習	<p>高齢者の特徴、健康問題と健康の維持・増進、疾病予防と管理、老年看護の看護課題としての認知症ケア、終末期ケア、倫理的課題としての身体拘束など、老年看護が抱える様々な看護課題に関する国内外の先行文献を検討し、論文クリティークの力を培う。そこから、自己の研究課題と研究方法を見出し、研究計画作成の基礎的な能力を養う。また、関連する学会への参加を通し最新の老年看護の課題を把握するとともに知見を深め今後の課題を明らかにする。</p>	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 広域看護学領域	健康医療政策学特論	<p>健康医療政策の決定過程について健康医療政策学的視座を理解し、実際の事例を通じて理解を深め、多職種連携・地域包括ケアにおける保健医療政策に貢献しうる能力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (10 豊川智之／13回)</p> <p>疾病予防対策、医療保険制度、看護師・医師・医療施設といった医療提供体制、医療評価など、種々の健康・医療に関わる制度・政策の背景並びに立案・実施、報道、社会への影響について、様々なステークホルダーの立場、関連の法令、費用負担のあり方などを学習する。</p> <p>(15 河村秋／1回)</p> <p>健やか親子21、成育基本法、こども家庭庁設置などの施策と現場との繋がりについて、事例をもとにディスカッションし、母子保健における現在の課題と健康医療政策学的論点の整理を通して学習する。</p> <p>(12 大久保麻矢／1回)</p> <p>療育を含めた育児の実際と健康医療・福祉政策に基づいた支援の乖離について、事例をもとにディスカッションし、障害児の家族に対し助産師の視点からの健康医療政策学的論点の整理を通して学習する。</p>	オムニバス方式
	健康医療政策学演習	<p>政策の最終受益者である住民をはじめ各ステークホルダーへの調査方法や、それを基にした政策決定から評価、修正までの各サイクルを演習する。政策決定過程に必要な統計値の推定についての理論や手技について統計学的演習を行う。政策立案に必要な文献レビュー、記者会見などのシミュレーションを行い、政策に係わる複合的な要素について理解を深める。</p>	
	ウィメンズヘルス看護学特論	<p>ウィメンズヘルスケアの歴史の変遷や役割について理解し、様々な概念や理論について教授する。女性のライフステージ全般（思春期・成熟期・更年期・老年期）にわたる健康問題及び周産期における母子やその家族の健康支援について理解し、対象のニーズに合わせた支援の在り方を科学的根拠に基づいて探究する。教授方法は、講義形式を中心に一部学生のプレゼンテーションやディスカッションも取り入れた双方向授業を展開する。</p>	
	ウィメンズヘルス看護学演習	<p>女性のライフステージについてリプロダクティブヘルス・ライツの視点で診ること、各ステージの健康課題や周産期の健康について生じる現象および対象について理解を深められるように教授する。周産期においては、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の各期に起こる健康課題について理解を深めるとともに、出生前診断や生殖補助医療など周産期医療体制や医療倫理の課題の探究能力を養う。授業方式は国内外の著書や論文をもとにテーマに基づき教員と学生のプレゼンテーションとディスカッションにより構成し、学生の診断能力及び問題解決能力を養うことを目指す。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 広域看護学領域	精神看護学特論	<p>精神看護における高度実践の基盤となる精神状態のアセスメントと、精神分析理論、対象関係論、セルフケア理論など、対象理解のための理論を学ぶ。さらに、看護理論の具体的展開方法と援助関係の実践について討議し、援助者としてのあり方とストレングスを高めるための支援について考究する。メンタルヘルスの現状と課題を探索し、効果的な地域包括ケアシステムの在り方を考究する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (5 金子真理子／6回) 精神看護に関連する理論モデルについて概説する。</p> <p>(26 小川朝生／4回) 精神症状評価、従来診断・操作的診断、器質疾患の診断と治療の基礎、統合失調症スペクトラム障害の診断と治療の基礎、双極性障害、抑うつ障害の診断と治療の基礎について概説する。</p> <p>(14 加藤星花／1回) 発達障害および二次障害のアセスメントと効果的な支援について討議する。</p> <p>(5 金子真理子・35 宮本真巳／2回) (共同) 援助関係の実践・教育方法としての看護場面の再構成法について討議する。</p> <p>(5 金子真理子・14 加藤星花／2回) (共同) 地域包括支援システムの現状と課題、精神症状評価と看護理論および援助者としての自己洞察について討議する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	精神看護学演習	<p>メンタルヘルスの予防、ストレス対処に関する心理教育、コミュニケーションを基盤とした治療的介入技法について体験を通して介入技術を学び、治療的介入技法を習得する。授業方法は大学院生が主体となり、プレゼンテーションやディスカッションを取り入れ、理解を深めていく。さらに精神看護に関連する研究テーマを考究するための方法論について教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (5 金子真理子／13回) 主にリエゾン精神看護における高度実践、リラクゼーション法、コンパッションフォーカストセラピー、セルフコンパッション等、高度看護実践について教授する。さらに各自の研究テーマを考究するための方法論について教授する。</p> <p>(14 加藤星花／2回) アートセラピー (芸術療法) の理論を教授し、事例や文献のクリティックを通して精神看護実践への適応について検討する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 広域看護学領域	産業看護学特論	<p>産業保健・産業看護の内外の歴史を振り返り、また現在の社会状況や社会的要請を分析しつつ、将来に向けて、産業看護職としての普遍的な役割を明らかにする。また産業看護の定義、産業看護に必要な理論・モデル、産業看護職の職務の特性など、産業看護を推進するための知識を理解し、そこから産業看護職としての支援のあり方、産業看護職に必要なコンピテンシーや技術、情報の取り扱い等について考究する。さらに、あるべき姿と現実のギャップを埋めるための課題を明確にし、自らの考えを構築できるようにする。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (8 新谷奈苗／14回)</p> <p>企業での実践活動における事例を理論に対応させて教授することで、理論と実践の融合を図るとともに、社会状況や産業構造の変化に伴う労働と環境の態様に対応しながら、産業看護職の役割と支援のあり方について考究する。</p> <p>(2 麻生保子／1回)</p> <p>企業とは異なる地域保健師としての組織管理、教育プログラムを学ぶことで、企業における活動の視野を広げるとともに、地域住民への関わりを通して、企業が住民の健康増進にいかに関与するかといった課題について考究する。</p>	オムニバス方式
	産業看護学演習	<p>産業保健・産業看護活動を推進するうえでのさまざまな知識、具体的には労働の生理的・心理的負担、人間工学の考え方と実際の適用方法、職業がん、有機溶剤中毒などの職業性疾病、高血圧、虚血性心疾患などのいわゆる作業関連疾患の成因と予防対策などについて、事例・論文の検討、クリティークを通して、特論で学んだ知識が研究テーマの絞り込みに活かせるようにする。加えて、産業保健・産業看護活動にとって特に重要な、コミュニケーション技術、コーディネーション技術、保健面接技術、ケースワークの力を、ロールプレイや議論を通して身につける。さらに、保健医療情報の特徴と種類、業務分析に必要な情報処理技術とプライバシーの保護を含めた情報管理技術を修得する。授業は受講生が主体となった事例や論文のクリティーク、ディスカッションを中心に実施する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (8 新谷奈苗／13回)</p> <p>産業保健・産業看護活動を推進するうえでのさまざまな知識について、事例・論文の検討をする。またコミュニケーション技術、コーディネーション技術、保健面接技術、ケースワークの力を、議論を通して教授する。</p> <p>(8 新谷奈苗・20 丸上輝剛／2回) (共同)</p> <p>保健医療情報の特徴と種類、業務分析に必要な情報処理技術とプライバシーの保護を含めた情報管理技術について検討する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 広域看護学領域	地域看護学特論	<p>すべての人々が、健康障害の有無にかかわらず、その人が望む生活を維持向上できるように、病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための学際的探究方法を修得する。また、コミュニティ（地域）そのものも看護の対象と捉え、健康で安全な地域社会の構築に寄与することを探求するとともに、実践への適応について検討する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (2 麻生保子／14回)</p> <p>地域診断方法や問題解決手法、ロジックモデル等を概観し、地域における課題解決方法を検討する。併せて、様々な健康レベルにある人々の生活を継続的・包括的にとらえて行う、課題解決のための実践への適用や看護職が担う役割、地域看護職の継続教育について考察する。</p> <p>(8 新谷奈苗／1回)</p> <p>環境改善によるストレス軽減や事故防止等の健康向上を目指す取り組みや、がん患者の罹患から回復までの道筋（path・パス）について、家庭や職場を含めた地域生活者としての特性を踏まえて支援する方法について検討する。</p>	オムニバス方式
	地域看護学演習	<p>本授業はゼミナール形式で展開する。各自で取り上げた研究テーマにおいて具体的な研究テーマの絞りこみや研究方法を検討する。具体的には、特論で学んだ課題解決手法等をもとに受講生と共に最適な課題解決方法を検討する。さらに、研究成果の地域看護学分野における活用可能性について現場の活動および関連文献を用いてディスカッションを行う。これらを通じて、地域看護における理論的知識と実践との往還、課題に対する柔軟な思考能力と深い洞察力、主体的な実践能力の育成を目指す。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	特別研究	<p>(概要) 様々な発達段階や健康レベルに応じた生活支援の方法や教育方法の開発を目指した研究活動を実施し論文を作成する。 具体的には、研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。その研究計画書をもとに研究倫理審査を受け、研究フィールドにおけるデータ収集を行う。その後、収集したデータの分析を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(1 中澤明美) 認知症ケア、高齢者の終末期ケア、身体拘束、老年期における看護の倫理的課題、在宅療養を支える家族ケアなど老年看護における研究課題の明確化をはかり、研究計画書の作成、研究倫理委員会への申請、倫理審査を受け、データ収集、分析、考察、論文作成、発表における一連のプロセスを身につける。</p> <p>(2 麻生保子) 地域で生活するあらゆる健康レベル、発達段階の人々を対象に、健康の保持増進とQOLの向上を目指し、現場の看護実践に寄与する研究を行う。具体的には療養環境の調整、専門職者の継続教育と連携、地域アセスメントに基づく地域づくり等、受講生の課題解決ニーズに応じた研究テーマに取り組む。研究手法は介入効果に関する量的な評価や行動科学に基づいた質的評価分析も検討し、研究能力の向上を図る。</p> <p>(3 石館美弥子) 小児各期にある子どもと家族にまつわる健康問題を検討し、小児看護学の発展に寄与する研究課題を明確化する。探究すべき研究テーマに沿って研究計画書を作成し、データ収集と分析、データに基づいた考察、論文作成、発表等の一連の研究プロセスを踏む。学術的意義のある修士論文を作成する過程において必要な基礎的研究能力を醸成する。</p> <p>(4 大堀昇) 医療安全、医療の質向上に資することを目的として、リスクマネジメント、クオリティマネジメント、看護師の役割と機能、および患者管理を主とした看護サービス、看護教育などにおける現状の問題についてディスカッション等を通して探り出し、自身が研究したい看護マネジメントの範囲を明確化する。また、明確化した問題意識に基づき研究計画立案から実施、論文執筆等、修士論文完成、発表までの一連の過程を経験し、研究における基礎的能力を育成する。</p> <p>(5 金子真理子) リエゾン精神看護、サイコオンコロジー、看護師のストレスマネジメント、発達障害、精神障がいをもつ患者や家族の支援等、精神看護分野に関する各自の課題を探求し、修士論文のプロセスを通じて看護研究者としての基礎的研究能力を養う。尚、修士論文プロセスは研究課題と研究デザイン・方法の明確化、研究計画書の作成、倫理審査委員会の申請・データ収集、量的・質的分析、考察等修士論文の提出、口頭試問を含む。</p> <p>(6 久保幸代) ウィメンズヘルス全般、思春期から更年期・老年期各期の健康、周産期に関連する健康、母子を取り巻く家族や地域に関するテーマをもとに、研究課題の明確化、量的・質的研究方法を用いた研究計画書の作成を行う。各自の研究フィールドでデータ収集を行い、分析、論文作成、プレゼンテーションができる研究能力の育成を行う。</p> <p>(7 白鳥孝子) 健康障害に対する医療を受ける人の意思決定支援、疾病や障害と共存しながら生活する人のセルフマネジメント支援などの成人期にある人とその家族の抱える健康問題やその看護について、また、臨床における倫理的な問題や健康障害をもつ人の人権や尊厳を尊重する看護などの各自の課題を探求し、リサーチクエスションから論文作成までのプロセスを通して、研究者としての基礎的能力を涵養する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	特別研究	<p>(8 新谷奈苗) 働く人々の健康と安全、働く環境を一体的に捉えつつ、一方で働く人々を地域の生活者としても包括的に捉えることで、地域とさまざまな組織の連携の重要性が問われている現状にある産業看護、公衆衛生看護の幅広い課題のうち、受講生が明らかにしたいテーマを修士論文としてまとめる。またそのプロセスにおいて、量的・質的データともに、科学的な取り扱いを行うための解析手法をマスターし、研究能力を高める。</p> <p>(9 竹内久美子) 看護サービスの特徴と質の評価（安全管理・人事管理・情報管理等）、看護組織の特徴と組織経営、組織文化の醸成、人的資源管理（リーダーシップ、人員配置、個人のキャリア発達と組織）、など、理論・モデルの実践への応用を検討するとともに、今後の研究課題の明確化を図る。領域の演習で洗練した研究疑問に基づき、修士論文完成までの研究課題の明確化、研究計画立案、データ収集、分析、考察、論文執筆、発表を行うための基礎的能力を育成する。</p> <p>(10 豊川智之) 全ての看護・公衆衛生学研究は健康医療政策学的側面を有していることを基軸とし、疫学・統計学的リスク分析をはじめ、シミュレーション評価、医療経済学的分析などを用いて、健康医療政策学に貢献しうる分析アプローチを習得し、修士論文の指導を通じて研究課題・リサーチクエスチョンを究明しようとする研究遂行の意欲と能力を高める。</p> <p>(11 石川紀子) 健康障害をもつ子どもと親・きょうだいを含めた家族についての課題、小児看護領域における継続教育についての課題など、小児医療や小児看護実践における各自の疑問から研究課題を探求し、明確化を図る。探求すべき研究テーマに沿った研究計画書の立案、倫理審査、データ収集と分析、データに基づいた考察、論文作成、発表の過程を通じて、小児看護実践に寄与する基礎的な研究能力を育成する。</p> <p>(12 大久保麻矢) 子育て期にある女性達を中心に、女性のウェルネスに向けた看護支援を探求する。母、妻、就業者など多様な役割を担う女性たちの生活実態を質的に明らかにするとともに、子どもの障害や、ダブルケアなど特別な状況下にある女性たちの状況も社会背景やジェンダーの視点など学際的な視点で分析を試みる。そこから、看護職として、また多職種と連携してなど具体的な支援を考察することを目指す。研究計画書の作成から論文執筆までの一連の過程を実施し、研究者としての基礎能力を養う。</p> <p>(13 小笠原祐子) 看護技術、看護技術教育、フットケア技術など、看護技術の科学的検証および看護ケアの質向上に関連した各自の課題の検討、明確化をはかる。研究課題に基づく研究計画書作成、データ収集、分析、考察、論文作成、発表の一連のプロセスをとおして、研究における基礎的能力の育成を図る。</p> <p>(14 加藤星花) 精神疾患を抱える人々のリカバリー（回復）とその看護、またメンタルヘルス全般、特に思春期から青年期の健康とセルフマネジメントへの支援と看護について、研究課題の明確化、量的・質的研究方法を用いた研究計画書の作成を行う。各自の研究フィールドでデータ収集を行い、分析、論文作成、プレゼンテーションができる研究能力の育成を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	特別研究	<p>(15 河村秋) 地域における個人・家族・集団への健康支援の方策の考察や開発、人材育成などについて研究テーマを明確化し論文として完成させる。具体的には、各自のフィールドや経験に基づいたリサーチクエストションに関する文献レビューなどから課題に関する現状や問題を把握し、研究テーマを決定、研究計画書を作成する。データ収集（質・量）、分析、考察、修士論文の作成の一連のプロセスを経験し、看護研究者としての能力を身につけることを目指す。</p> <p>(16 平山香代子) 在宅看護過程、在宅療養援助技術、家族援助者への支援、訪問看護師の継続教育など、在宅看護における研究課題の明確化をはかり、研究計画書の作成、研究倫理委員会への申請、倫理審査を受け、データ収集、分析、考察、論文作成、発表における一連のプロセスを身につける。</p> <p>(17 笥亮子) 心的外傷後ストレス障害の心理社会的支援、精神障害をもつ患者の意思決定支援、地域で生活する精神障害者やその家族に対する支援、精神科臨床における看護師の倫理と判断などの精神看護分野に関する課題を探究する。明確化した研究課題について、研究計画書の作成、データ収集、分析、論文執筆までのプロセスを通して、研究者としての基礎的能力を高める。</p>	